

令和4年度

教職課程
自己点検評価報告書

令和4(2022)年12月

同朋大学

目 次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検評価	2
1.	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
(1)	基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有	2
(2)	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	5
2.	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
(1)	基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成	6
(2)	基準項目2-2 教職へのキャリア支援	9
3.	基準領域3 適切な教職課カリキュラム	10
(1)	基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	10
(2)	基準項目3-2 実践的指導力養成と地域との連携	13
III	総合評価	13
IV	現況基礎データ一覧	14

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名 同朋大学 文学部 社会福祉学部
同朋大学大学院 人間学研究科

(2) 所在地 〒453-8540 愛知県名古屋市中村区稲葉地町 7-1

(3) 学生数及び教員数 (令和4年4月1日現在)

学生数：教職課程履修【学部】 237名／全体 1,188名

【大学院】 1名／全体 8名

教員数：教職課程科目担当 103名 (内、専任42名)／全体 163名 (内、専任45名)

2 特色

同朋大学は、1826年に名古屋東本願寺掛所内に開設された「閲蔵長屋」に始まり、その後、住田智見師を学祖とする「真宗専門学校」を前身とする。親鸞の教えに基づく「同朋精神」を建学の精神として、「共に生きること」を学び、真の人間育成をめざす大学である。そうした歴史ある大学の建学の精神を一言でいえば「同朋和敬（どうぼうわきょう）」ということである。「同朋（どうぼう）」とは、鎌倉初期の僧、親鸞聖人の「御同朋御同行」の精神による。親鸞聖人は名もなき田舎の人々と共に念仏の教えに生き、念仏申す人々を「御同朋御同行」と尊敬して、「共なるいのち」を生きた人であった。その親鸞聖人が「和国の教主」と敬われたのが聖徳太子である。聖徳太子は「篤く三宝を敬え」「和（やわ）らかなるをもって貴（たつと）しとし」と、仏教によって国の政をした人である。同朋大学は、この親鸞聖人の「同朋」と聖徳太子の「和敬」をもって「共なるいのち」を生きるという建学の精神を教育理念としている大学である。本学教職課程における教員養成もこの教育理念と全く軌を一にしている。すなわち、「自らのいのち（存在）と向き合うことで一人ひとりのいのち（存在）と出会い、そこから真実の道を求め、開いていく教師」の養成、これが本学教員養成の理念である。本学の教職課程認定は以下の通りである。

学部・学科	免許状の種類
	免許状（免許教科）
文学部 仏教学科	中学校教諭一種免許状（宗教） 高等学校教諭一種免許状（宗教）
文学部 人文学科	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
社会福祉学部 社会福祉学科社会福祉専攻	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民） 高等学校教諭一種免許状（福祉） 特別支援学校教諭一種免許状
社会福祉学部 社会福祉学科子ども学専攻	幼稚園教諭一種免許状

人間学研究科仏教人間学専攻 博士前期課程（仏教文化分野）	中学校教諭専修免許状（宗教） 高等学校教諭専修免許状（宗教）
人間学研究科仏教人間学専攻 博士前期課程（人間福祉分野）	高等学校教諭専修免許状（福祉）

II. 基準評価ごとの自己評価

1 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標

【状況説明】

教職志望者には、授業で学んだ理論と学外活動やボランティア活動などの体験や経験から学んだ実践とが一体化された「いのち（存在）を学ぶ」という「学士力」に加えて、教員に必要な「教育力」を身につけることでこの理念を実現し、本学の教員養成に与えられた社会的使命の一端を果たしたいと考えている。そのために、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもってこの理念に取り組み、「共なるいのちを生きる次世代の教育者」を養成している。このように、同朋大学における教員養成の目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教職課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。また、育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

上述の理念をもとに、以下の三つの目的を設定し、学生と関係教職員と共有している。第一に、「人類文化及び社会福祉に貢献する確かな教員力の育成」として、幅広い視野から真理を探究し、社会福祉や国際社会貢献などの専門分野を体系的に学ぶことで、すべての人が生き生きと暮らせるようにする社会の実現という現代的な課題に取り組むための確かな学力と豊かな人間性を育むことを目指している。第二に、「社会性を持ち、広く豊かな教養に支えられた実践的指導力の養成」として、様々な課題を抱える子どもたちとしっかり向き合い、「共なるいのちを生きる」ために必要な指導や援助ができるよう、専門的知識や技術の修得、実践的指導力の養成を目指している。第三に、「一人ひとりのいのち（存在）と出会い、そこから真実の道を求め開いていく自己教育力の獲得」として、真宗・仏教の哲学を通して、内には「自己」を発見し、外には「社会」にかかわれる人間が育つ教育、すなわち仏教精神に基づく真のリベラル・アーツを体現する自己教育力の獲得を目指している。

【長所・特色】

以下のとおり、学部、専攻によって、目指す教師像を詳細に定め、学生に周知している。

第一に、〈文学部が目指す教師像〉として、文学部では「同朋大学における教員養成の理念と目的」（前掲）に重点を置きながら、学部独自の教育理念を活かしつつ、特に次のような教員の養成を目指している。

1. いのちを尊重し、一人ひとりの存在を認め、存立する精神に共鳴できる教師。

真宗・仏教の哲学を通して、自分自身の生き方について、終末医療や福祉、人権、平

和など時代背景や社会的な問題も含めながら、人生のあり方・生き方への方針を、仏教の思想、歴史、文化を学ぶことによって 探究していこうとする、仏教精神に基づく真のリベラル・アーツを体現する教師の育成を目指している。

2. 総合的な知識と思考力を身につけ、人間の尊厳の上にたった指導や援助ができる教師。
日本だけでなく幅広い国や地域で生まれ、育まれてきた文学や歴史、宗教。これらをはじめとする多彩な 芸術・文化、哲学や思想などを通して、総合的な知識と思考力に裏打ちされた人間力のある教師の育成を目指している。
3. アカデミックな探求を基盤に、真理を探究し体現することができる教師。
建学の理念である「同朋和敬」の精神に基づく教育を根幹とする文学部における学びを通して、社会的な 価値観に埋没しがちな個性の存在価値を大切にし、また、文学・思想・歴史・宗教の各分野におけるアカデミックな探求を基盤に、人間の価値を決定する真理を探究し体現することができる教師の育成を目指している。

第二に、〈社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻が目指す教師像〉として、社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻では「同朋大学における教員養成の理念と目的」(前掲)に重点を置きながら、専攻独自の教育理念を活かしつつ、特に次のような教員の養成を目指している。

1. 本当の福祉とは何か、「生きる意味」を追求する教師。
真宗・仏教の哲学を基盤に人々の幸せに貢献できる福祉の精神と専門的知識を身につけ、日本だけでなく幅広い国や地域など広い視野から人間の福祉を考察する。そうした広い視野で「生きる意味」を捉えながら実践に活かすことができる、学校での福祉教育のリーダー・エキスパートとして活躍できる教師の育成を目指している。
2. 総合的な知識を身につけ、社会福祉の視点にたった指導や援助ができる教師。
哲学、社会制度・政策、保健・医療、国際関係、ボランティア、環境などの専門分野を体系的に学びながら、「人間とは何か」「人間としてどう生きるのか」といった人間と福祉の関係性や健全な社会を形成するあり方を探求する、人間力のある教師の育成を目指している。
3. 福祉実践基礎力を基盤に、個性を尊重し、かつ周囲の人々と協働・連携ができる教師。
「仏教精神・社会福祉を基盤とした真のリベラル・アーツの実現」を教育の根幹とする社会福祉専攻における学びを通して、福祉・教育従事者として学ぶ必要のある福祉実践基礎力(「心が動く力」「じっくり考える力」「共に生きる力」)の向上を目指し、現場において自立・独立しつつも、周囲の人々との協働・連携が できる教師の養成を目指している。

第三に、「社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻が目指す教師像」として、社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻では「同朋大学における教員養成の理念と目的」(前掲)に重点を置きながら、専攻独自の教育理念を活かしつつ、特に次のような教師の養成を目指している。

1. 子ども・家庭・地域などの様々なニーズを理解し、適切に対応できる教師。
子どもに身近な家庭・幼稚園・地域といった環境とそのニーズを、幼児教育、児童福

祉、社会福祉といった様々な角度から学び、人権、平和、国際化など時代背景や社会的な問題も含めながら柔軟に対応していける教員を育成している。さらには、自分自身の生き方について、仏教精神に基づいた人生のあり方・生き方への方針を見いだすことで、他者と共鳴・共生し、健やかな子どもの育ちを応援する教員の育成を目指している。

2. 知識と技術に支えられた確かな実践力を発揮する教師。

幼児教育の基本理念を体し、「共なるいのちを生きる」ために子どもたちと向き合いながら、子ども一人ひとりの興味・関心・発達に合わせた総合的な指導を行なえる教師を育成している。とくに、実習、子育て支援活動、ボランティア活動といった実践活動を通して知識と技術の融合を図り、教師に相応しい社会性や人間力・思考力を伴った教師の育成を目指している。

3. 一人ひとりのいのちを尊重し合うなかで真理を探究し体現する教師。

年齢の低い子ども、障がいのある子ども、多国籍の子どもといった特別な配慮を必要とする子どもとその家庭だけではなく、幼稚園に通う子ども一人ひとりが、異なる生活経験、異なる発達過程、異なる個性をもつ唯一無二の存在であることを理解し、幼稚園生活のなかで互いの良さを伝え、共有していけるような教師を育成している。宗教・教育・福祉・歴史等の各分野におけるアカデミックな探求を基盤に、幼児教育者としての専門性を備え、人間の価値を決定する真理を探究し体現することができる教師の育成を目指している。

育成を目指す教師像の実現に向けては、たとえば、「教育実習」、「教育実習（特別支援学校）」ならびに「幼児教育実習」（以下“教育実習”と総称する）については、以下の内容を『学生生活』の中で学生に周知・徹底している。

“教育実習”は、教職課程を履修する学生が学校教育の実際を経験することによって、日々の教師や生徒の実際に触れ、「教育とは何か（教育観）」、「教師はいかにあるべきか（教師像）」という基本的な課題を探究する上で重要な意義を持っている。この“教育実習”の履修にあたっては、履修年度（第4年次）の前年度である第3年次の段階から諸手続を開始しなければならない。“教育実習”の実際については「教育演習」（中・高1種）、「幼児教育実習事前事後指導」（幼1種）の授業時に詳説される。また“教育実習”にいたるまでの手続きは、第3年次5月中旬に“第1回教育実習ガイダンス”を実施し、手続き等について説明をする。第3年次教職課程履修者は必ずガイダンスに出席し、手続き等に遺漏のないように留意しなければならない。教育実習ガイダンスに引き続き、第3年次中に教師としての適性などを面接によって判定する。教育実習ガイダンス、面接等はその都度日時を掲示し、見落としのないように留意するよう、学生に周知・徹底している。

なお、“教育実習”は、各実習校の教員にとっては、教育実習生の指導は本務ではなく多忙な日常の学校教育活動の中でそれが成り立つのは「後継者を育成するために」という現場教員の“好意と協力”のもとに初めて可能になることであることを明示している。

“教育実習”を履修しようとする学生は、この点について充分認識の上、曖昧な気持ちで実習の登録をすることのないよう、また、履修にあたって事前の十分な準備と心構えが要求されることに留意するよう周知・徹底している。

“教育実習”中の授業欠席について、実習期間中、その期間内の授業を欠席しなければな

らず、第4年次では実習ばかりでなく、「卒業論文」研究、就職活動など、余儀なく欠席しなければならないことが多く考えられるため、常日頃より健康に留意管理し、欠席することのないよう指導している。また、怠惰による欠席は厳に慎むよう指導している。

【根拠となる資料・データ】

- 1-1-1：同朋大学学則
- 1-1-2：同朋大学大学院学則
- 1-1-3：2022年度同朋大学大学案内
- 1-1-4：2022年度同朋大学大学院入学案内
- 1-1-5：大学、学科、研究科等の三つのポリシー
- 1-1-6：学生生活 2022

（2）基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

【状況説明】

研究者教員と実務家教員、事務職員が連携して教職課程運営に携わっている。全学組織として、教務委員会の下位組織に教職課程部会が置かれている。教職課程部会のメンバーには、学務部長と、教職課程担当教員として、文学部、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻、社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻、大学院から各教員の担当者が配属されている。教職課程部会では、年に数回、教職履修生の状況、教育実習の実施状況、教職課程FD研修会、教員の就職状況などについて、審議や報告を実施している。

また、GIGAスクール構想における一人一台タブレットの導入に伴い、教職課程で使用可能な25台強のタブレット端末を導入し、各教職の授業で自由に使用できる体制が整っている。2021年度以降は、コロナ禍において、教職課程に限らず本学全体でMicrosoft Teams等を使用する遠隔授業を実施することにより、教職課程履修の学生も含めて、全体的にICTを使う教育環境に慣れ親しむことができた。教職課程履修の学生は実際にそれらを使用して模擬授業を実施するといった経験も積むことができてきた。また、それに伴い、遠隔授業における情報モラルの手引きが共有され、教職課程履修の学生も情報倫理について学ぶ体制が整っている。ほとんどの教室でWi-Fiの整備状況も良好なため、各教室でインターネットを使用する授業が可能な設備状況となっている。

【長所・特色】

毎年9月中旬に、教職課程FD研修会を専任教員と非常勤講師を対象に実施している。

2019年度は教職課程再課程認定をテーマに、2020年度は教職課程の現況をテーマに実施された。2021年度は、ICTを主テーマとした各課程の課題等についての講題で、3名の教職担当専任教員からの講演、出席者は28名、遠隔での実施であった。後半は、幼児教育教職課程、中高教職課程、特別支援学校教職分科会と三つに分かれ、それぞれの課題を出し合った。2022年度は「ICTを活用した学習活動とICT活用指導力」の講題で、情報科目の非常勤講師からの講演、出席者は31名、対面での実施であった。毎年実施されている学生による授業評価アンケートについては、同日開催の全学FD研修会において説明や議論が交わされた。

教職課程に関する情報公表については、本学ホームページにて、教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく教員養成の状況を情報公表している。「教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画」として、教員養成の目標、文学部が目指す教師像、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻が目指す教師像、社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻が目指す教師像、教員養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目、教員養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画、卒業者の教員免許状の取得状況、卒業者の教員への就職状況、教員養成に係る教育の質の向上に係る取組等を公表している。

教職課程部会（前掲）では、適宜、教職課程履修規程の見直し、教職課程履修生の課題、教職課程における ICT 教育の取り組みの共有、教職課程 FD 研修会の開催方針の決定、その反省等、定期的に部会を開催し、議題の審議と報告および情報共有を実施している。2022 年度にも、教職履修要件の見直しなど、近年の教職履修学生の動向に合わせた見直しを適切に実施している。

【根拠となる資料・データ】

- 1-2-1：同朋大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
- 1-2-2：2020 年度同朋大学全学 FD 研修会。教職 FD 研修会開催案内
- 1-2-3：2020 年度同朋大学全学 FD 研修会。教職 FD 研修会開催案内
- 1-2-4：2020 年度同朋大学全学 FD 研修会。教職 FD 研修会開催案内

2 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

(1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

【状況説明】

教職を志す学生に対して、教育職員免許を取得する必要、卒業に必要な単位に加えて、教職課程の科目を相当数履修しなければならないこと、教員になるには採用試験を受験し、合格しなければならないが、そのためには 1 年次より準備をしておく必要があること、つまり教職を志す学生には、学業に対するより一層の努力と、更には採用試験に対する第 1 年次よりの周到な準備・学習が要求されることを『学生生活』の中で明記し学生に周知徹底している。また、同箇所では、教職に要求される適性についての自問ならびに自らの進路について充分検討の上、曖昧な気持ちで教職課程を履修することのないよう留意すること、本学では要件に満たない学生の教職課程の履修を認めていないことを明記し、教職に関する授業等で周知・徹底している。

『学生生活』の中で教職課程履修要件として、中学校・高等学校の教職履修要件を以下のとおり定め、学生に周知・徹底している。なお、教育実習履修要件については、教職課程履修要件に含まれるが、ここでは省き、基準領域 3 にて詳説する。

第一に、「文学部・社会福祉学科社会福祉専攻 1～4 年次（2019～2022 年度入学生）」については、3 年次の教育実習履修要件を次のように示している。「① 2 年次の履修要件は、1 年次の GPA が 2.0 以上の者であること。ただし、この要件を満たさない者でも仮履修できる。② 3 年次の履修要件は、2 年次の履修者であること、及び、2 年次の仮履修者で、2 年次の GPA が 2.0 以上であること。③ 編入学生（3 年次）の履修要件は、教務委員会（教

職課程部会)で決定する。」以上のとおりである。

第二に、「社会福祉学科子ども学専攻1～2年次(2021～2022年度入学生)」については、幼稚園一種の教職課程履修条件を以下のとおり定め、学生に周知・徹底している。

「(1)年度当初において、幼稚園教諭を目指す意思が明確かつ強固なものであること。」、
「(4)編入学生(3年次)の履修要件は、教務委員会で決定する。」以上のとおりである。

第三に、「社会福祉学科子ども学専攻3～4年次(2019～2020年度入学生)」については、幼稚園一種の教職履修条件を以下のとおり定め、学生に周知・徹底している。

「(1)年度当初において、幼稚園教諭を目指す意思が明確かつ強固な者であること。(2)2年次の履修要件は、1年次において「幼児教育原理」・「保育内容総論」を修得していること。」、
「(4)編入学生(3年次)の履修要件は、教務委員会で決定する。」以上のとおりである。

【長所・特色】

教職課程(中・高)履修学生は、各学年10名弱から30名程度と、大学の規模に見合った適切な規模で実施されている。たとえば、「教職実践演習」でもゼミ形式の適切な人数での授業が成り立っている。教職課程(中・高)の履修学生には、各学年の授業開始時点で、「履修カルテ」を配布し、一年をとおした自身の学びを振り返り、新たに目標を立てる機会を設けている。学生に具体的には以下のことを周知している。

まず、「履修カルテ」と「教職実践演習」について説明し、本学の教職課程では、次の3つの目標を掲げ、教員養成に力を入れていることを示している。第一に、人類文化及び社会福祉に貢献する確かな学士力の育成、第二に、社会性を持ち、広く豊かな教養に支えられた人格の陶冶、第三に、教員として必要な使命感・責任感・教育的愛情・教育実践力の育成である。そして、この目標の根本理念として、本学の建学精神である「同朋和敬」があること、仏教の普遍的真理は、自己とは何か、人間とは何かを問い、自己と社会との関係を自覚的にしていくこと、それは、自らのいのち(存在)と向き合うことで、一人ひとりのいのち(存在)という真実の道を開いていくことでもあるということを説明している。

したがって、学生には、授業で学んだ理論と学外活動やボランティア活動などの実践から学んだことが一体化された「いのち(存在)を学ぶ」という「学士力」に加えて、教員に必要な「教育力」を身につけてほしいと思っていると説明している。

また、そうした学生生活のなかで、学生自身が理論と実践を統合させながら、自らの学びの過程を自己評価し、自己の成長を自覚的に促す資料として「履修カルテ」があるというように、「履修カルテ」の意義の理解を促している。さらに、「履修カルテ」は日頃の学習態度や教職科目への取り組みを経過観察するための資料でもあることや、学生に不足している知識や技能を補うために、これまでの学びの過程の自己評価(履修カルテ)を本学教員が確認し、それを踏まえた指導を行うことにも活用されるということを説明している。それが、教職課程の集大成である四年次後期に行われる必修科目の「教職実践演習」であることを理解させている。

なお、「教職実践演習」では、教員としての表現力や授業力、指導法に磨きをかけるため、ロールプレイング・フィールドワーク(現地調査)・事例研究・模擬授業などを取り入れた、より実践的な演習形式の授業が展開されている。「履修カルテ」は、この「教職実践演習」

の担当教員の指導にも欠かせない資料の一つとして活用されている。今までの学びの軌跡と自己評価が記入された「履修カルテ」を大切に記録・保管し、教職課程の総仕上げである「教職実践演習」に臨むよう、すべての教職課程（中・高）履修学生に周知徹底している。

社会福祉学科子ども学専攻における教職課程（幼）履修学生は、各学年 30 名程度となっている。教職課程（幼）の履修学生には、第 1 学年修了の時点で、コース選択が決定される。子ども学専攻幼児教育コースにおいて、教職課程（幼）が履修できる。その時点で「教職履修カルテ」を配布し、教職課程（中・高）同様に、一年をとおした自身の学びを振り返り、新たに目標を立てる機会を設けている。学生に具体的には以下のことを周知している。

まず、「教職履修カルテ」と「保育・教職実践演習」について説明し、本専攻の教職課程（幼）でも、教職課程（中・高）と同様に上述の 3 つの目標を掲げ、教員養成に力を入れていることを示している。

次に、教職課程（中・高）における「履修カルテ」の活用の仕方について述べる。履修カルテの内容は【履修状況】と【自己評価】に分かれている。【履修状況】に含まれるものとして、(1)「フェイスシート（教職関連科目履修状況表）」がある。【自己評価】に含まれるものとして、(2)「必要な資質能力についての自己評価」、(3)「実践経験記録表（ボランティア・学外活動・教育実習などの記録）」、(4)「ボランティア・学外活動・教育実習などの経験について」、(5)「各学年での教員免許の履修状況についての自己評価」、(6)「教職を目指す上で課題と考えていること」がある。

上に挙げた (1) から (6) について、学生には次のように説明している。

(1)「フェイスシート（教職関連科目履修状況表）」については、自分が取得を希望する免許に合わせて、計画的に履修することが大切であること、「フェイスシート（教職関連科目履修状況表）」を活用し、いつ、どの科目をとればよいのか自分で履修の計画をたてる必要があること、また、履修した科目も記入し今後の見通しと評価に役立てるとよいことなどである。

(2)「必要な資質能力についての自己評価」については、2 年次から 4 年次まで記入すること、各年次末に必ず自己評定（「1、全くできていない」から「5、とてもよくできている」の数字に丸をつける）を実施すること、自分の成長の過程を確認し、自分に何が足りないのかなどを考えたりするための指標にすることができることなどである。

(3)「実践経験記録表（ボランティア・学外活動・教育実習などの記録）」については、実践経験（ボランティア・学外活動・教育実習など）を時系列に記録すること、自己評価だけでなく、履歴書等の作成にも役立つことを説明している。

(4)「ボランティア・学外活動・教育実習などの経験について」については、「実践経験記録表（ボランティア・学外活動・教育実習などの記録）」の記入をふまえて、学んだことと反省したことを記述するよう促している。

(5)「各学年での教員免許履修状況についての自己評価」については、「教職関連科目履修状況表」の記入をふまえて、今後の見通しや課題を含めた自己評価を記入するよう、説明している。

(6)「教職を目指す上で課題と考えていること」については、今後の課題等を記述するよ

う促している。

以上の（１）から（６）については、教職関係の授業で、記入方法の説明や記入してあるかどうかの確認を行う機会を適宜設けている。

教職課程（幼）における「履修カルテ」の活用の仕方については、おおむね教職課程（中・高）と同様である。項目は６点ある。（１）「教職関連科目履修状況」においては、教職関連科目履修状況表によって計画的な履修を促し、修得した科目について、「学んだこと」および「今後の課題」を記入し、学びを振り返り、今後の見通しに役立てるよう説明している。（２）「必要な資質能力についての自己評価」については、各年次末に自己評定をさせ、自己の成長の課程の確認、自己に何が足りないのかなどを考えるための指標としている。

（３）「実践経験記録表（ボランティア、学外活動、保育・教育活動の見学・実践などの記録）」については、時系列に記録させている。（４）「ボランティア、学外活動、保育・教育活動の見学・実践などの経験」については、（３）をふまえて、学んだことと反省したこと記述し、実践経験を活かせるように説明している。（５）「教職を目指す上で課題と考えていること」については、今後の課題等を記述するように説明している。（６）「担当教員所見」では、主に教職関連科目担当教員が学生の学びの過程や課題の記述を指導助言している。

【根拠となる資料・データ】

2-1-1：学生生活 2022

2-1-2：ホームページ・シラバス

2-1-3：同朋大学教職履修規程

2-1-4：教職課程履修カルテ

（２）基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

【状況説明】

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握し、学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。具体的には、例年、秋から冬にかけて、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会の職員を招聘し、学生を対象とする次年度教員採用試験説明会を学内で実施し、学生が参加している。教職に就くための各種情報を適切に提供し、教職への就職支援に関しては、キャリア支援センター主催の催しが例年開催されている。教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫については、時事通信社による教員採用試験対策講座の動画を視聴できる環境や、キャリア支援センター主催の数理塾など、採用試験対策を豊富に取り揃えている。

キャリア支援を充実させる観点からの、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携については、毎年、教職に就いている卒業生を「教職実践演習」や「キャリア支援講座」等に招聘することにより、教員の働き方に関する具体的な講演をとおして、教職志望の学生が教職を強く目指すための意欲を喚起している。また、本学では相対的に採用人数の少ない福祉科や宗教科の免許状を取得できるため、連携可能な高等学校や卒業生のいる高等学校に依頼し、授業見学を実施している。

【根拠となる資料・データ】

2-2-1：2022年度 同朋大学大学案内（主な就職先一覧）

2-2-2：ホームページ シラバス

3 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

（1）基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

【状況説明】

キャップ制に関しては、教職の科目を履修する場合は年間60単位（半期30単位）まで履修することが可能である。その上で、建学の精神を具現化する特色ある教職課程教育として、以下に述べるカリキュラムを実施している。

「文学部における教員養成の目標を達成するための教育計画」の「学部共通事項」として、第一に「総合的・学際的カリキュラム」として、宗教学、哲学、倫理学、法学、歴史学、心理学、教育学、地理学、社会学、環境学といった隣接する学問領域と連携し、総合的・学際的な視点で学びを進めている。第二に「確実に学びを深める系統的カリキュラム」として、各学科の基礎科目・教養共通科目・専攻科目の3つの科目区分の系統的な履修の上に、教職課程に必要な教育原理、教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育課程論などの教職の意義に関する科目や教科の基礎理論に関する科目を学び進めている。第三に「指導力を重視したカリキュラム」として、生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目である教師論、各教科教育法、道徳の理論及び指導法、特別活動の指導法、教育相談などを学び、これまでの講義で得た理論を介護等体験やボランティア活動、学外活動等の様々な実践を通じて深く身につけている。第四に「教育現場と連携した実践的カリキュラム」として、さまざまな実践を通じてより深く身につけるために、授業見学や教育実習という学外での実習が可能なプログラムを実施している。第五に「4年間を通じた少人数教育」として、1年次から4年次まで小集団科目を中心に実施することで、学生一人ひとりへのきめ細かな指導を行っている。また、「履修カルテ」やポートフォリオの活用によって、それぞれの学びの成果を確認しながら教員養成における教育の質の向上に取り組んでいる。

次に、「社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻における教員養成の目標を達成するための教育計画」として、専攻共通事項として、「総合的・学際的カリキュラム」では、宗教学、哲学、倫理学、法学、歴史学、心理学、教育学、地理学、社会学、環境学といった隣接する学問域に加え、生活と福祉、ソーシャルワーク理論、社会福祉基礎演習などの専門基礎科目と連携して、総合的・学際的な視点で学びを進めている。第二に「確実に学びを深める系統的カリキュラム」では、各専攻の基礎科目・教養共通科目の上に、専門基幹科目である障害者福祉論、高齢者福祉論、社会保障論、社会理論と社会システムなどを系統的に履修し、教職課程に必要な教育原理、教育心理学、教育制度論、教育方法・課程論などの教職の意義に関する科目や教科の基礎理論に関する科目を学び進めている。第三に「指導力を重視したカリキュラム」では、特別支援教育領域や社会福祉学に関する基礎理論や生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目である教師論、各教科教育法、道徳教育研究、特別活動研究、教育相談、臨床心理学などを学び、これまでの講義で得た理論を介護等体験、ボランティア活動、学外活動等の様々な実践を通じて深く身につけている。第四に「教育現場と連携した実践的カリキュラム」では、様々な実践を通じてより深く身に

つけるために、授業見学や教育実習という学外での実習が可能なプログラムを実施している。第五に「4年間を通じた少人数教育」では、1年次から4年次まで小集団科目を中心に実施することで、学生一人ひとりへのきめ細かな指導を行っている。また、「履修カルテ」やポートフォリオの活用によって、それぞれの学びの成果を確認しながら教員養成における教育の質の向上に取り組んでいる。

次に、「社会福祉学部社会福祉学科子ども学専攻における教員養成の目標を達成するための教育計画」として、専攻共通事項として、「総合的・学際的カリキュラム」では、宗教学、哲学、倫理学、法学、歴史学、心理学、教育学、地理学、社会学、環境学といった隣接する学問領域と幼児教育原理や保育内容総論などの教育の基礎理論に関する科目等と連携し、総合的・学際的な視点で学びを進めている。第二の「確実に学びを深める系統的カリキュラム」として、専攻の専門基礎科目である子ども学総論、生活と福祉に加え、子どもと生活、幼児の教育課程、児童・家庭福祉総論、子どもの保健などの専門基幹科目を系統的に履修した上に、教職課程に必要な保育者論、幼児教育心理学、幼児の教育課程などの教職の意義に関する科目や教科の基礎理論に関する科目を学び進めている。第三に「指導力を重視したカリキュラム」では、健康の指導、人間関係の指導、言葉の指導、音楽表現の指導、美術表現の指導、幼児教育相談等、教育課程及び指導法に関する科目や生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目を学び、これまでの講義で得た理論をボランティア活動、学外活動等の様々な実践を通じて深く身につけることを目指している。第四に「教育現場と連携した実践的カリキュラム」では、さまざまな実践を通じてより深く身につけるために、授業見学や体験学習、幼児教育実習という学外での実習が可能なプログラムを実施している。第五に「4年間を通じた少人数教育」として、1年次から4年次まで小集団科目を中心に実施することで、学生一人ひとりへのきめ細かな指導を実施している。また、「履修カルテ」やポートフォリオの活用によって、それぞれの学びの成果を確認しながら教員養成における教育の質の向上に取り組んでいる。

【長所・特色】

教職課程カリキュラムの実施にあたり、愛知県や名古屋市の教育委員会を中心とする説明会に出席し、今日の動向を踏まえるとともに、教員育成指標を含め今日の学校教育に対応する内容上の工夫を実施している。また、今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導を実施している。特に、「教職課程における教師の ICT 活用指導力充実に向けた取組について」（中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会）の内容を参考に、学校・教育委員会の具体的な取組の参考となるよう作成した動画コンテンツについては、独立行政法人教職員支援機構のオンライン講座「学校における ICT を活用した学習場面」などの動画コンテンツや各教科等の指導における ICT 活用に係る動画コンテンツを教職課程の授業で学生に紹介している。とりわけ、教育方法論や各教科の指導法などに活用して、学生が、より実践的に、また確実に教師の ICT 活用指導力を身に付けることができるよう取り組んでいる。学生向けの活用法として挙げられている「教育の情報化に関する手引」を授業のテキスト又は参考資料として用いること、動画コンテンツの視聴と演習を組み合わせた授業とすること等を実施している。

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成するとともに、教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明瞭に示している。また、教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。具体的には、「文学部・社会福祉学科社会福祉専攻1～4年次（2019～2022年度入学生）」については中学校・高等学校の教職免許状取得に際して、4年次の教育実習履修要件を次のように示している。以下は教職履修要件の一部である。「①3年次までに、「教育原理」・「教師論」・「教育制度論」・「教育心理学」・「特別支援教育の理解」・「教育課程論」・「道徳の理論及び指導法」・「総合的な学習の時間の指導法」・「特別活動の指導法」・「教育方法論」・「教育相談」・「生徒指導と進路指導」・「教育演習」を履修していること。②他資格を併修する場合の実習期間は、講義開講期間中に年間延べ6週間をこえないこと。③社会福祉学科生で「福祉」の教科の教育実習履修者は、「公民」又は「社会」の免許教科も併修することを原則とする。」以上のとおりである。

次に、特別支援学校免許状取得希望者に対しては「4年次の教育実習（特別支援学校）履修要件」を次のとおり定め、周知・徹底している。

「(1) 3年次までに、「特別支援教育Ⅰ」・「発達障害児心理学Ⅰ」・「発達障害児の生理」・「肢体不自由児総論」・「病弱児総論」・「発達障害児教育指導論」・「障害児の発達と教育Ⅰ」・「障害児の発達と教育Ⅱ」・「重複障害児教育総論」・「LD等教育総論」を履修していること。

(2) 他資格を併修する場合の実習期間は、講義開講期間中に年間延べ6週間をこえないこと」以上のとおりである。

次に、「社会福祉学科子ども学専攻1～2年次（2021～2022年度入学生）」に対しては、教育実習履修要件を次のとおり定め、周知・徹底している。「(2)「幼児教育実習Ⅰ」の履修要件は、「保育者論」及び「幼児教育原理」、「音楽Ⅰ」を修得していること。また、「幼児教育実習指導」を履修中であること。そのほか、系列必修科目の「領域および保育内容の指導法に関する科目」を4科目以上、「教育の基的理解に関する科目」を3科目以上（「保育者論」と「幼児教育原理」を含む）。原則として、合計で必修科目8科目以上修得していること。(3)「幼児教育実習Ⅱ」の履修要件は、「幼児教育実習Ⅰ」を修得済みであること。

(5)他資格を併修する場合の実習期間は、講義期間中に年間延べ6週間を超えないこと。」以上のとおりである。

「社会福祉学科子ども学専攻3～4年次（2019～2020年度入学生）」に対しては、教育実習履修要件を次のとおり定め、周知・徹底している。「「幼児教育実習Ⅰ」の履修に当たっては、1年次の単位修得状況、学習態度及び選考面接の結果を勘案して決定する。(3)3年次の履修要件は、2年次までに「保育内容総論」を修得していること。2年次に「幼児教育実習Ⅰ」を未履修の者については、2年次までの単位修得状況、学習態度及び選考面接の結果を勘案して決定する。(5)4年次の履修要件は、「幼児教育実習Ⅰ」・「幼児教育原理」・「保育内容総論」を修得済みであること。また、「領域に関する専門的事項の科目」について5領域以上、「保育内容の指導法の科目」（「保育内容総論」を除く）について4領域以上修得済みであること。「幼児教育実習Ⅱ」の履修については、3年次までの学習態度及び選考面接の結果を勘案して決定する。3年次までに「幼児教育実習Ⅰ」を未履修の者については、3年次までの単位修得状況、学習態度及び選考面接の結果を勘案して決定す

る。(6) 他資格を併修する場合の実習期間は、講義期間中に年間延べ6週間を超えないこと以上のおりである。さらに、「履修カルテ」(前掲)を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

【根拠となる資料・データ】

3-1-1 : 教員免許更新講習 e ラーニング関係書類

3-1-2 : 学生生活 2022

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

【状況説明】

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会の設定として、子供たちと関わるボランティアやアルバイトを継続的に学生に紹介し、様々な体験活動(介護等体験、ボランティア、インターンシップ等)とその振り返りの機会を各教職授業の中で設けている。また、大学ないし教職課程部会等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築としては、教育委員会等の説明会には毎回出席し、質疑応答等を含めて連絡を密にするよう努力している。教職課程に関する教員等が教育実習協力校と教育実習の充実を図るために連携を図るために、連絡文書や教員の訪問指導を積極的に実施している。また愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会主催の「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ」に2020年度と2021年度に参加し、参加大学の特色等を報告することをおして、地域の高校生の教職への理解を高める一助を担っている。

【根拠となる資料・データ】

3-2-1 : キャリア支援センターによる教育委員会説明会案内

3-2-2 : 愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会主催の「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ」チラシ

Ⅲ 総合評価

基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、「基準項目1-1 教職課程教育に対する目的・目標」と「基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫」とともに良好な実施状況である。具体的には、育成を目指す教師像の学生への周知徹底をはじめ、関係教職員による教職課程の目的・目標の共有などが、全学組織である教職課程部会や毎年実施される教職課程FD研修会などを通じて実施されている。さらに、今後も、自己点検評価を定期的実施し、教職課程の在り方を組織的に見直していきたい。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」においては、「基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成」と「基準項目2-2 教職へのキャリア支援」とともに良好な実施状況であるが、改善点も見出すことができている。具体的には、当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を学生に周知徹底することや教職課程履修要件の設定とその改善などがある。「履修カルテ」の活用も効果的に実施されているが、さらに教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしていく必要があることが明らかになった。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、「基準項目3—1 教職課程カリキュラムの編成・実施」と「基準項目3—2 実践的指導力養成と地域との連携」ともに良好な実施状況であるが、さらなる努力も必要である。具体的には、教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現化する特色ある教職課程教育を実施しているものの、学生による様々な体験活動(ボランティア、インターンシップ等)をさらに促す必要性がある。また、大学ないし教職課程部会等と教育委員会等との組織的な連携協力体制のさらなる構築も今後より重視していきたい。とりわけ、今後の課題として、教職課程(中高)と大学院の教職課程においては、履修者と免許取得者および教職への就職数を増やしていくこと、さらなる質の向上が挙げられる。

IV 現況基礎データ一覧

設置者					
学校法人 同朋学園					
大学・学部名称					
同朋大学 文学部、社会福祉学部					
同朋大学大学院					
学科やコースの名称(必要な場合)					
文学部：仏教学科、人文学科					
社会福祉学部：社会福祉専攻・子ども学専攻					
同朋大学大学院：人間学研究科 仏教人間学専攻(博士前期課程・博士後期課程)					
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
		(中高)	(幼稚園)	(大学院)	
① 昨年度卒業生数		177名	35名	16名	
② ①のうち、就職者数(企業、公務員等を含む)		135名	4名	13名	
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)		9名	29名	0名	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用、臨時的任用の合計数)		7名	6名	0名	
⑤ ④のうち、正規採用者数		2名	6名	0名	
⑥ ④のうち、臨時的任用数		5名	0名	0名	
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 (非常勤講師)
教員数	21名	12名	9名	0名	61名
相談員・支援員など専門職員数					
	事務部教務担当	3名			
	事務部実習指導室	3名			
	各学部研究室	2名			
	キャリア支援センター	3名			